

- 1 日時 令和5年10月30日（月）14時から
- 2 場所 文化会館たづくり6階 601・602会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 10人
 - (2) 事務局 文化生涯学習課 3人

次第1 報告 第1回選定審査委員会について

- ・第1回選定委員会で意見をいただいた仕様書の内容について、修正点を報告。

次第2 議事 (1) 委員会の傍聴について

- ・当日の傍聴希望者はなし。

次第2 議事 (2) 選定審査基準等について

- ・第1回選定委員会で意見をいただいた審査基準、評価書の内容について、修正点を報告。（異議なし）

次第2 議事 (3) プレゼンテーション審査

- ・文化・コミュニティ振興財団によるプレゼンテーションの実施。

<質疑内容>

○委員G

文化施設3館連携の視点について確認させてください。まずは、経費削減の成果において、今後、どのようなことが見込めるかということをお教えください。また、音楽事業やその他の個別事業について、文化施設3館連携することでより効果的に取り組めれば良いと考えますが、具体的な取組がありましたらお伺いしたいと思います。

○財団

組織体制でのメリットとしましては、施設管理に特に該当しますが、各施設に施設担当を配置するのではなく、施設管理係が一元的に管理することで、長期的な視点での立案・計画が進められると認識しております。この取組を推進することで、施設の長寿命化を図り、また、たづくりで実施したESCO事業なども含め財政支出の削減・標準化を実現しております。契約上のメリットもあり、業務委託先や物品の購入先を共通化、または一本化することでコスト削減を図っています。今後も文化施設3館が横串を刺すように連携していくことで、サービス向上と経費削減ができると考えています。

事業に関しましては、文化会館たづくり、グリーンホール、せんがわ劇場でキャパシティや性質が異なるホールを有していることから、それぞれの特性を生かしながら一つのコンセプトを持った事業の実施が可能となりました。せんがわ劇場であれば、これまで仙川の限られた地域のみで人が集まって行っていた事業について、たづくりやグリーンホールをはじめとして、市内全域での回遊性を持たせることができるメリットがあります。事例としては、調布国際音楽祭でいえば、せんがわ劇場の小規模劇場のメリットを生かすワークショップ形式の内容の実施や、昼間気軽に来場できる事業も実施していきました。シネマフェスティバルでは、小規模でも楽しめる映画事業を実施しました。このほか、たづくりを主な開催場所としている市民カレッジでは、座学の後、せんがわ劇場を通じて学びを深めるような、文化施設3館連携の例があります。

仙川地域の特色を生かしながら文化施設3館全体で実施できた事業として、このような形で今後も推進できれば良いと思っています。

○委員長

他にご質問がありましたら、お願いします。

○委員C

演劇事業での芸術監督の設置について、芸術監督と財団職員のそれぞれの役割や関係性について教えてください。

○財団

芸術監督制については、財団、芸術監督、ディレクターチームの3者の強みを生かして実施していくことを考えております。財団は劇場全体の運営の統括をします。芸術監督は演劇事業の企画、創造面の支援の推進を図っていきます。芸術監督は経験や専門的な知見を有し、高い経験値や人脈も活用していきたいと考えています。また、そこから人材育成や普及啓発にも影響をもたらすことにもつながります。更に、外部アドバイザーもおり、離れた立場として劇場の経営について適宜助言をいただけるものと考えております。

○委員C

調布市を拠点にして活動している様々な文化団体があると思いますが、そちらとの連携はどのようにお考えでしょうか。

○財団

これまで、たづくりやグリーンホールを中心として活動していただいておりますが、せんがわ地域において、各団体にどのようなニーズがあり、文化団体でどのようなことができるかなど、広く意見を聞きながら、今後検討していきたいと考えています。

○委員長

他にご質問がありましたら、お願いします。

○委員D

特別支援学級へのアウトリーチを実施している中で、デルによるアウトリーチ事業に参加した皆さんの感想はどのようなものがあるか、成果を伺いたいです。また、施設の貸出では、受付業務のはじめ、障害者などに対する取組がされていると思いますが、初めて来館した高齢者や視覚障害者、聴覚障害者等は、スムーズに利用できるものなのか、取組について具体的に教えてください。最後に、障害者理解という言葉があるものの、理解することは難しい面もあると思っています。共生社会ということで、様々な方がいらっしゃると思いますが、人材育成の点で、どのくらいの頻度で、また、どのような規模で研修を実施されているのか教えてください。

○財団

デルのアウトリーチ事業は、学校や福祉施設など、様々な場所で実施しています。デルのアーティストが施設職員や学校の先生と違った視点で接することができるので、普段、気づくことができなかった子どもたちの一面を見ることができたり、演劇の視点を活用しながら歩み寄ることで、心を開いてくれたりもします。すぐに成果が出なくても、回数を重ねることで、気持ちが前向きになる子どもが出てきたりしているという成果があると、実際に施設職員や学校の先生に伺っています。

施設に関しましては、せんがわ劇場では車椅子席を設けるほか、集団補聴装置の用意などもあります。その他、窓口では筆談の対応なども実施しています。配慮については、利用者ごとに異なるものと認識しており、予約時や舞台打合せ時などで、ご相談いただくことで、可能な限り対応していきたいと考えています。また、主催事業では、障害者などへの対応として、鑑賞サポートを用意しています。例えば、視覚障害者の方には、事前の舞台説明会や音声ガイドの準備、聴覚障害者の方には、演劇の台本を事前に貸し出したり、劇中の字幕表示も行っています。子連れのお客様に対しては、保育サービスも実施しています。その他、演

劇では珍しいと言われていますが、「赤ちゃんOKデー」といって、0歳児から入場ができ、親御さんにも来ていただきやすい取組も実施しています。

職員の研修としましては、せんがわ劇場では鑑賞サポーターが、障害者の方にもどのような配慮が必要なのかを学ぶための研修会を実施しています。財団職員全体でも、年に2回実施している研修の中で障害理解につながる研修を実施したことがあります。

○委員長

他にご質問がありましたら、お願いします。

○委員H

専門人材の確保としては、市役所などとは職員数も異なりますので、定期的な人材確保が難しいと思います。採用時にはどのような募集や選考を行っているか、財団としての考えがありましたら教えてください。

○財団

財団で採用を行う際には、事務総合職として募集しています。その中で求める人物像としましては、マネジメント力、コミュニケーション力、リーダーシップの3つを重視しています。財団の求めるアートマネジメント人材の視点はもちろんですが、地域に貢献する職員として、共通して必要となるスキルであると考えております。採用後は、文化芸術に関する専門的な知識だけでなく、市の施策を推進できるような自立した総合的な能力を備えたマネジメント人材を育成する方針です。

○委員H

令和5年度の事業計画でも市との政策的な連携や、市民や地域などとの連携を推進できる総合的なスキルを備えた人材育成に取り組む必要があるとありますが、この職員のスキル向上に向けた取組として、例えば文化施設3館が連携することで、効率的・効果的に行っている職員配置などの取組があれば伺いたいです。

○財団

アートマネジメントというものは、非常に領域が広いものだとして認識しており、文化芸術に関する知識と経営に関する専門的なスキルが求められてきます。具体的には、施設管理や、防火防災、人事、総務、資金調達など、全てにおいて能力が求められるので、定期的な研修機会を設けるほか、自己啓発なども奨励しています。先ほど説明しました、財団全体の研修も実施しています。共生社会に関する内容は、平成30年度から毎年、全体研修で実施し、個別の具体的な鑑賞サポートなどの研修も取り入れているところです。その他、人員配置に関しましては、施設管理の専門性の高い職員に関しては、関係部署に配置するなど、施設運営、事業運営で工夫して配置しています。

○委員H

ありがとうございます。文化施設3館の連携ではなく、他団体、他自治体の文化施設との連携について、これまでの取組や今後の取組についてお考えがあれば教えてください。

○財団

せんがわ劇場では、先ほど説明したディレクターチームのメンバーがせんがわ劇場だけでなく、他の公立文化施設でのマネジメントに関わっており、そのノウハウをせんがわ劇場で活用することもあります。財団全体としては、都内で実施しているワークショップと連動した企画もあります。

○財団

グリーンホールでは、定期的に、東京多摩公立文化施設協議会や東京都公立文化施設協議会の会議に出席しており、東京芸術劇場や東京文化会館と連携している事業もあります。

○委員長

その他、いかがでしょうか。委員Eどうぞ。

○委員E

3点お伺いしたいことがございます。まず1点目ですが、地域連携の取り組みについて、助成金が取りやすくなることを含めて詳細に教えてください。2点目、せんがわ劇場で音楽事業での無料コンサートというものが定着する一方で、たづくりやグリーンホールでのイベントでの誘導にはなかなかつながっていないという課題意識を持たれているといった話がありました。こちらに関して新たな指定期間で、どのように取り組んでいくかお伺いしたいです。3点目ですが、共生社会の充実に関しては、すでに取り組まれているようですが、運営的な面での印象を受けます。例えば、パラアート展のような、共生社会にかかわるテーマで様々な事業、企画を広げていくお考え、計画があればお伺いしたいと思います。

○財団

地域連携の取組について、助成金の視点でお話をしますと、文化庁の助成金は、公演事業、普及啓発、人材育成の取組が対象となります。これまで地域連携の取組は、例えば、お祭りへの参加や、大学と一緒に何かを実施することを、助成対象となる3つの区分と別に地域連携事業として位置付けていたために、助成金の申請ができなかったことがありました。今後は、文化芸術事業を地域と連携して、せんがわ劇場で実施するという事業計画にしています。公演事業、普及啓発事業、人材育成事業があって、その中に地域連携の取組を入れていくこととなります。例えば、夏祭りの際に、せんがわ劇場が劇場ホールを使って、ミニシアターのような演劇系の事業を実施する際、今までは別枠で入っていたものですが、普及啓発事業の中に入れることで助成金として申請ができることとなります。令和6年度以降については、各事業に地域連携の内容を盛り込んでいくような準備をしているところです。

○委員E

金額的な効果は出てくるのだろうかと分かりましたが、内容面でもより良くなっていくのでしょうか。

○財団

地域連携を、文化芸術に関する取組として捉えていきたいと考えています。例えば、せんがわ劇場として、地域のお祭りに参加する場合には、ただ構成員として参加するのではなく、お祭りの一要素に劇場での公演を位置づけ、文化芸術事業の一環として取り組むなどです。

○財団

質問の2点目につきましては、今までは、せんがわ劇場の周りのお客様に留まってしまうということがありました。今後も調布市内全域の皆様に向けていきたいですし、せんがわ劇場を利用いただいた方が、更に、たづくりやグリーンホールに足を運んでいただく、また、その逆もあって良いことです。調布国際音楽祭では全ての施設を使ってきたのですが、グリーンホールで実施する大きなオーケストラ公演のキャンペーンコンサートを、気軽な形でせんがわ劇場で実施し、グリーンホールでもいかがでしょうかといったようなことはこれまでも実施しております。市全体をみて、どの劇場、どのホールで実施すれば、お客様に色々なものを観ていただけるか市内全域の視点で考えたいと思っています。

○委員E

それに関して、今までの取組に加えて、何か新たな策があるという理解でよろしいでしょうか。

○財団

せんがわ劇場の音楽事業というより、グリーンホールの事業として仕掛けていくことになろうかと思いますが、市内全域の皆様に向けた内容、無料、有料の内容含めて展開していきたいと考えています。

○財団

共生社会の充実に関する事業につきましては、鑑賞サポートというような内容ではなく、障害者による文化芸術の推進という視点でしょうか。

○委員E

普及啓発の意味合いもあると思っていました。例えば、LGBTQに関して取り上げた演劇であったりを国が

進める運動月間などで行ったりと。パラアートは連結している事業だと思います。その他、国際交流の視点など、まだまだ、伸びしろがあると思いますので、運営でなく、音楽や演劇、場合によってはアウトリーチでも良いのですが、何かしらイベントや企画ができないかなといった趣旨です。

○財団

外国人であったり、障害のある方などが、参加しやすい仕組みを作っていくことを財団が取り組んでいるところです。社会性のあるテーマを持った事業を実施してはどうかといった御主旨かと思います。こちらにつきましては、今後の5年間でより具体的に考えていきたいと思っています。

○委員長

私自身、調布市で学生時代7年間過ごしたり、現在、調布市で就労していることもあり、仙川であったり、調布駅周辺であったり、それぞれ特色があると思います。市内に優秀な人材がいると思いますが、その方たちと、お客さんとして来館する地域の方々との結びつきについて、これからどのようにしていくかビジョンがあればお伺いしたいです。

○財団

市民とのつながりとして、たくさんの人に見に来ていただいたり、参加しやすいワークショップや事業を行うことが大前提としてあります。財団には、アートサポーターズという制度があります。まずここに参加していただくことからスタートして、例えば劇場の事業では、当日のスタッフとしての参加、バックステージツアー、子ども向けの企画などではリハーサルの時から参加していただき、意見やアイデアを集めたり、作品のブラッシュアップにも協力いただいています。あと、SNSなどを活用して、例えば、アートサポーターズの皆様に、劇場の準備の段階から、様子を見てもらい、そのレポートをSNSで発信してもらうなど一緒に参加いただくことで、事業を作っていくような取組を実施しています。まだまだこれからと考えておりますので、より深いかわりを持っていければと考えています。最後に、仙川の地域には音楽に関わっている方がいますので、せんがわ劇場だけでなく、財団全体としても関わっていただきたいと考えています。先ほども触れました、桐朋芸術短期大学との自主制作公演の会場の提供、白百合女子大学とは心理学の実験観察の授業の一環として、ワークショップなども行っております。

また、せんがわ劇場で実施した、「親と子のクリスマス・メルヘン」事業の中で、せんがわ劇場の舞台などを取り扱った形で工作のワークショップを開催した例があります。調布市せんがわ劇場×白百合女子大学として、このプランニングに関わってもらい、せんがわ駅前の広場に一緒に出て行ったりとか、大学の校内でワークショップを実施したりしました。

○委員長

様々実施されていることがわかりました。これからも更に発展させて、地域と人材との結びつけをしていくということでもよろしいでしょうか。

○財団

その通りです。

○委員長

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

○副委員長

令和元年度から5年度の指定管理期間においては、せんがわ劇場運営プランの継承を基本としてきましたが、その成果と課題、また、今後の事業計画にどのように反映させていくか教えてください。

○財団

市の直営時代からの運営プランを継承してきましたが、財団職員がアートマネジメントの視点で運営を担ってきたということが一番のポイントになると思います。これまで培ってきた経験やスキル、専門性を活かして、事業運営、施設管理に関して充実させることができていると認識しています。また、鑑賞サポート、

保育サービスなど付帯的なものから、事業そのものを拡大できたことを含め、運営プランが終了し、新たな展開となる中では、施設と事業の持続性の担保が、最も大事であると考えています。そのために人材育成や普及啓発に関する事業の枠組みをしっかりと作って、財団の基本計画にせんがわ劇場の内容も組み入れています。また、収入の面も大事になってきますので、受益者負担の視点も取り入れながら、チケット価格の設定や、助成金の獲得など、財源の確保にも更に取り組んで参りたいと考えております。

○委員長

よろしいでしょうか。財団の皆様ありがとうございました。それでは御退室願います。

質疑を終了しましたので、審査をお願いできればと思います。

次第2 議事 (4) 審議

- ・事務局より集計結果を報告。
- ・プレゼンテーション内容、質疑応答等を踏まえた、意見交換。

○委員J

令和元年の台風19号の際には、調布市の市制施行後初となる避難勧告を発令し、約6000人の市民が避難をするといった、大きな被害を受けました。このことを踏まえまして、令和3年9月に調布市と、せんがわ劇場を運営する文化・コミュニティ振興財団が災害時協力協定を締結したという経過がございます。こうした経過を踏まえまして、ぜひ、せんがわ劇場を運営する文化・コミュニティ振興財団には、災害時における施設をうまく管理できる指定管理者として効果的な災害時の対応を市に提案するなど、より主体的に課題解決に向けた取組を進めていただきたいと思います。

○委員D

せんがわ劇場側の考えだけでなく、当事者の意見をどこかの場面で聞くことも必要であると感じました。高齢者の団体、障害者の団体もありますので、施設の使い勝手がどうかなど、より良い劇場の運営につながるので、当事者の意見を伺うよう、検討いただきたいと思います。

○副委員長

今後のせんがわ劇場の事業計画については、せんがわ劇場運営プランを継承するとともに、ノウハウある財団として、芸術性を高めるなどの目標設定がなされていました。地域連携や文化施設3館連携など、せんがわ劇場として、さらなる充実を図っていただきたいと思います。

○委員E

様々な取組がされていることがわかったので、これから期待していきたいと感じました。目標としている内容について、数字で捉えられていないものもあると思いました。すべては難しいが、数字で捉えることが可能な内容はしっかり数字で捉え、測定して公開していくといったサイクルを意識いただきたい。例えば施設管理において、耐用年数を長くできた、CO2の削減、共同購入することでこれだけ削減できました、文化施設3館連携していなければ、このような結果になっていたなど、数値・金額で分かるような形で示すことを意識いただきたいと思います。

○委員長

資料のデータの出典は根拠として示すことで、信ぴょう性が高くなると感じました。

○委員G

文化施設3館連携のメリットについて、人員配置のほか、経済状況をデータでも分析できると望ましいと感じました。また、事業展開でも財団としてのノウハウが活かされているということがわかるように具体的に示すことを心掛けていただきたいと思います。

○委員C

地域大学のみならず，文化協会をはじめ，市内の文化団体との取組も，引き続き，推進していただきたいと思います。

- ・ 審査結果を「適正」として決定し，付帯意見については事務局で取りまとめたのち，最終的な文言確認は，委員長一任とする。（異議なし）

次第3 その他 今後の予定について

- ・ 事務局より説明。

—了—